



生かされ、生きるチカラ。

仲間の和に入ること、自己を見つめ直すことができました。

小平教会 小山隆央さん

小山隆央さんは、大学で建築学を学んだ後、父親が創業した建設会社に入社。利益重視の営業スタイルでめきめきと頭角を現わすと、30歳頃には父親を凌ぐようになり、有頂天だった。平成4年に父を押し退け社長に就任。父の代からの取引先の仕事を減らし、自ら受注した利益率の高い仕事を中心とする経営に転換。ところが、バブル崩壊の余波で仕事は激減した上、強気の経営もあだとなり、会社は傾いてしまう。金策に走り回る毎日。父親が興した会社を潰してしまう自責の念。誰にも相談できず、つらさを胸底深く抱え込んでいた時、自分と同様の苦を抱えているが、互いに語りあい、励ましあい、生きる意味を見出そうとしている人たちと出会う。その和の中で冷静に自己を見つめることができ、一からやり直す決心をした。見栄や体裁を繕わず謙虚に生きていく——という心のあり方を見つけたのだ。いま、仲間から掛けられた「必ずやり直せませうから」という言葉を、人生をかけて証明したいと願っている。



和合の秘訣

仏教では、同信の仲間をサンガといいます。仏教の信者やその集まりを意味するインドの言葉ですが、日本語ではこれを和合衆と訳します。和合、すなわち和らぎ睦みあう仲間のことです。

和合の「和」には「あたたか」という意味もあります。つまり、一人ひとりのあたたかな思いやりが、家庭・地域社会、さらには国や世界の和へとつながっていきます。国のこと、地域全体のことは政治の問題と思いがちですが、論語によると「自分を正し、家を斉えることも政である」とあり、和合は私たち一人ひとりの心から生まれていくのです。

では、なぜ和合が大切なのか——それは、宇宙・人生の一切は大和から成り立っていることからわかるように、自他の命を尊重する最善、最良の手立てが和合にほかならないからです。

立正佼成会